メールニュース　2026年　4月22日付　NO.26112

海員春闘［中央交渉］　全内航交渉委員会
第1回目からこれまでの経過

第1回交渉　3月2日

全内航との第1回交渉は、15時30分から開催した。労使双方の交渉委員を確認した後、船団側を代表して関田拓生全内航会長（交渉委員長）、組合側を代表して松浦満晴組合長がそれぞれあいさつを行った。

次に交渉委員会運営を確認した後、組合要求の趣旨説明を行い、船団側から、今次労働協約改定に関する申し入れはないとの報告がなされた。

交渉では組合要求に対する考え方を質したところ、船団側は、船員の労働条件・労働環境を改善しなければならないことは理解しており、社会情勢や内航海運業界の現状を踏まえ、期限内解決に向け検討したい。また、年間臨時手当交渉の同時決着について、船団側は異論ないとした。

最後に「有効期間」については本日段階で仮合意とし、次回交渉日程については、3月11日に関西地方支部で開催することを確認し、第1回全内航交渉委員会を終了した。

第2回交渉　3月11日

第2回全内航交渉委員会は、3月11日の16時から海員組合関西地方支部大会議室で開催し、第1回交渉で仮合意した「有効期間」を除く組合要求について逐条審議を行った。

船団側は、組合要求の基本給について、海運業界に船員を呼び込むためにも賃金改善の必要性は理解しているものの、イラン問題などで今後の見通しも不透明な状況下、本日時点で回答を示すのは困難であるとの考え方を示した。

これに対し組合側は、陸上諸産業でも昨年以上の賃上げ回答が示されており、人材確保競争は激化している。大幅な賃金改善は必要不可欠であると指摘したが、船団側は具体的な回答を示さず、議論は平行線をたどった。

また、長期乗船慰労金について船団側は、要求趣旨は理解しているものの、船団内部で具体的な回答がまとまっていないことから本日時点での回答は難しいとした。

第3回交渉は3月18日に開催、第4回交渉を3月24日に開催するも、組合要求に具体的回答を示さず、議論は平行線をたどったため、船団側に解決に向けた内部検討を求め、交渉を中断終了した。

「海員だより」